



日本赤十字社 京都第二赤十字病院 広報誌

病院理念 | 歩み入る人にやすらぎを、帰りゆく人に幸せを

TAKE FREE

vol.4
2017 Apr



地域とつながる広報誌



やすらぎ

特集

新院長・新副院長に聞く

京都第二赤十字病院の これから

知ってほしい! 最新放射線治療^{…4・5}

HOSPITAL TOPICS^{…6・7}

新副院長 長村 敏生



新院長 小林 裕



新院長・新副院長に聞く

京都第二赤十字病院の これから

安全で、質の高い医療を、
継続して提供します

新院長 小林 裕

この度、平成29年4月1日付で院長を拝命いたしました。大変な重責ですが、引き続き頑張りたいと思っていますのでよろしくお願いします。

当院は赤十字病院として、災害救護と日々の診療の大きな二つの役割を担っています。記憶に新しい災害救護活動として、熊本地震が挙げられます。出動の機会はない方が良いのですが、いざという時のために日ごろから訓練をし、緊張感を持続しています。日々の診療に関しては、社会の変化に伴い役割が変化しました。高齢者社会の進展を踏まえ、国の方針として、医療は「病院のみで完結する」のではなく「地域全体で完結する」へと舵が切られ、医療機関相互の役割分担と連携協力が推進されています。病院の役割を高度急性期、急性期、回復期、慢性期に分けて、それぞれの病院に適正ペッソ数を再配分することになりました。

また診療報酬制度で、当院は大学病院に準ずる高度な役割の病院として「包括医療費支払い制度（DPC）II群病院」に指定されています。当院ではこれらを受けて、高度急性期および急性期に特化した病院としての役割を担うことになりました。つまり、日ごろはかかりつけ医で診療を受けておられる患者さんが、入院あるいは特殊な専門外来および緊急医療が必要な際に診療をさせていただくのが役割となりました。

当院の理念は「歩みに入る人にやすらぎを、帰

りゆく人に幸せを」であり、この理念を達成するためには「安全で、質の高い医療を、継続して提供する」ことが使命と考えています。

「安全」はいまでもなく何よりも大事にされるべきで、部署ごとで姓名を名乗っていただくなど、患者さんにもご協力を願っています。分からることは、ぜひ積極的に尋ねください。病状によっては、危険を承知で挑まなければならぬ医療状況もありますが、そういう時こそ、医療サイドの独りよがりにならないように対話を心掛けたいと思います。

「質の高い医療」とは、まずは各診療科における最新の医療知識、技術の日々の研鑽が必須です。さらに、患者さんの病気に対する不安感や心配をいかに和らげることができるか、どれだけ患者さんに寄り添い、やさしい医療を多職種のチームで実践できるか、むしろこの点こそが重要と考えています。

「継続して提供する」とは、当院が将来にわたって地域医療を提供し続けるとの意味があります。人材育成と、ハード面がしっかりとしなければ、安心して医療を続けることはできません。後者については、京都の中心地にあり、狭い敷地のなかで増改築を繰り返してきた当院は、B棟・C棟の建て替え新棟建設を近々の課題として取り組んでまいります。

患者さんと一緒に、患者さんの病気の治療や苦痛をなくすために、これからも職員一同、精進を続けたいと思います。



Profile

- 1980年 京都府立医科大学卒業
- 1980年 京都府立医科大学第一内科研修医
- 1982年 舞鶴赤十字病院内科副部長
- 1983年 京都第二赤十字病院内科医員
- 1985年 京都府立医科大学第一内科助手
- 1990年 大阪鉄道病院血液内分泌内科主任医長
- 1993年 京都府立医科大学第一内科助手
- 2003年 京都府立医科大学血液・腫瘍内科学内講師
- 2006年 京都第二赤十字病院内科副部長
- 2008年 京都第二赤十字病院内科、血液内科部長
- 2013年 京都第二赤十字病院副院長
- 2017年 京都第二赤十字病院院長



■ 地域のみなさまへ

京都第二赤十字病院は、これからも地域の皆さまの命を守り、安心を生み出す存在であり続けたいと考えております。お身体でご不安な点や心配なことがございましたら、かかりつけ医を通じ、ぜひ当院までご相談ください。



診療の質を上げ、患者さんの満足のいく治療を届けます

新副院長 長村 敏生

この度、平成29年4月1日付で副院長を拝命いたしました。これまでの小児科部長という立場から、今後は病院全体の経営に参画するという重責を担うことになりますが、自身の力の及ぶ限り職責を果たしていきますので、どうぞよろしくお願いします。

私は1982（昭和57）年に京都府立医科大学を卒業し、1990（平成2）年に当院に赴任しました。小児科の専門外来としては小児神経外来を担当していますが、当院赴任後は小児救急、子どもの事故防止にも深く関わるようになり、病院南隣の京都市子ども保健医療相談・事故防止センター（京あんしんこども館）の設計監修も担当しました。当院には27年にわたってお世話になっていますが、その間水田隆三先生、清澤伸幸先生という2人の部長の下で数々の熏陶を受け、貴重な臨床経験を積ませていただくことができたことは私の幸せであり、財産です。

「歩みに入る人にやすらぎを、帰りゆく人に幸せを」という理念が示すとおり、当院の特徴としては地域医療支援病院であり、救命救急センターを併設していることが挙げられます。一方、当院はがん診療連携拠点病院でもあります。がん患者さんに最先端の有効な治療を行うことが重要であることはいうまでもありませんが、経過中に急変する可能性があるがん患者さんや慢性疾患の患者さんにとっても、急変時に速やかな対応が可能な当院は安心感をもたらす

存在になると確信しております。

病院で働く者のビジョンは「診療の質を上げる」ことに集約されるのではないかと私は考えています。医療従事者は常に自らの診断精度と治療技術を上げるように研鑽を積むことが求められ、リサーチマインドを忘れずに日々の診療を行うべきですが、それは同時に患者さんが納得される医療でなければならないことを忘れてはいけないと思っています。実際、医師が患者さんに直接接する時間はそれほど長くはなく、患者さんの納得感は最終的に医師を含めたすべての病院職員の誠意ある対応にサポートされてはじめて得られるものだと思います。医療には元々不確実な側面があるのは事実ですが、どのような場合でも患者さんに納得していただける診療を心掛けるという意識を全職員が共有して、それぞれの領域で自分の仕事に取り組むことが「診療の質を上げる」ことにつながると考えています。



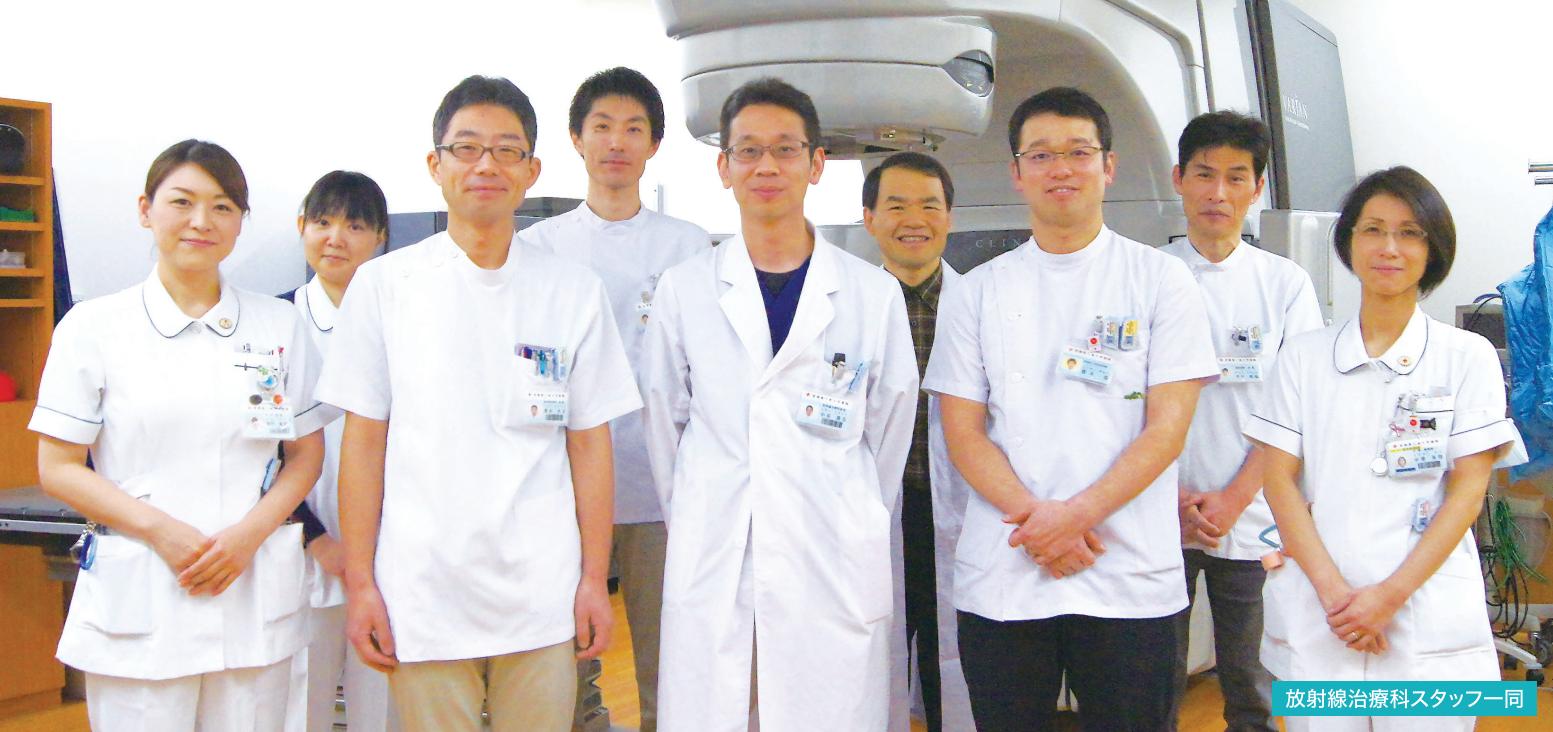
Profile

- 1982年 京都府立医科大学卒業、小児科医局入局
- 1984年 明石市立市民病院小児科勤務
- 1986年 京都府立医科大学小児科大学院入学小児神経学専攻
- 1990年 同大学院卒業、京都第二赤十字病院小児科勤務
- 1997年 京都第二赤十字病院小児科副部長
- 2006年 第28回母子保健奨励賞受賞、東宮御所で皇太子・同妃殿下に接見の栄を賜る
- 2010年 5月28、29日に京都テレサで開催された第24回日本小児急救医学会会長を務める
- 2015年 京都第二赤十字病院小児科部長
- 2017年 京都第二赤十字病院副院長
- 2018年 2月23、24日に第24回日本SIDS・乳幼児突然死予防学会を主宰予定

地域のみなさまへ

今後も当院が地域の中核病院として地域の皆様の健康を守り、地域の他の医療機関との連携を推進していくことに微力ながら貢献していきたいと考えています。一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。





Advanced Medical
進む先進医療 >>

放射線治療科

知ってほしい! 最新放射線治療

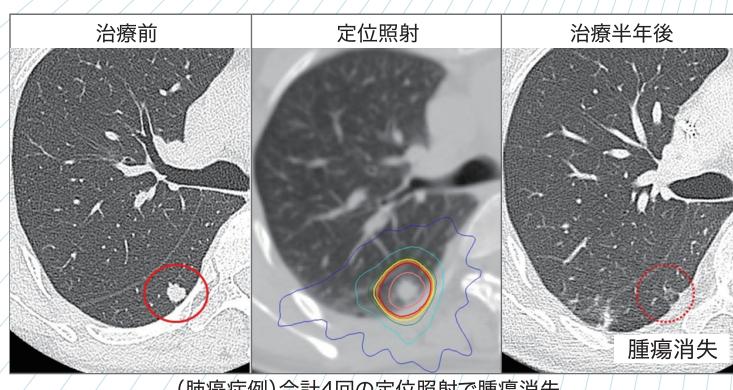
患部を切除することなく治療が可能で、身体の機能や形態の温存に優れている放射線治療。近年、ターゲットに狙いを定めてピンポイントで治療を行う技術の進歩が目覚ましく、より負担が少なく効果的な治療が可能となってきています。今回は、当院で実施している最新の放射線治療をご紹介したいと思います。

1 画像誘導放射線治療

治療室内でレントゲン画像やCT画像を撮影し、腫瘍の位置や形状を日々正確に把握したうえで治療を行う技術です。当院の放射線治療機には、画像誘導放射線治療用にOBI(On Board Imager)と呼ばれる装置が搭載されています。この技術を用いることで、位置誤差を治療直前にミリ単位で正確に補正することが可能となり、腫瘍に狙いを絞った放射線治療を行うことができるようになりました。

2 体幹部定位放射線治療

小さな病変に対して、従来より多い放射線量を多方向から1点に集中して照射する方法で、高い治療効果を持ちます。治療期間が短く副作用も一般的に少ないことも特徴で、4~10回（1~2週間）程度の外来治療で副作用なく治療完遂できることが多いです。肺腫瘍や肝腫瘍で特定の条件を満たす場合に保険適応となっております。



放射線治療科

放射線治療科はがんの三大療法のひとつである放射線治療を専門として、根治治療から緩和治療まであらゆるがんを対象に治療を行っています。

現在、2名の放射線治療医が毎日の診察や放射線治療業務、カンファレンスでの症例検討などを行っています。外来は新患、再診ともに毎日午前・午後に枠を設けており、当科で対応が必要な患者さんの診察が常にできる体制を整えています。治療患者数は2014年190例、2015年250例、2016年346例と増加傾向で、今後もより良い放射線治療を多くの患者さんに提供できるよう努めてまいります。



▲放射線治療専門技師、品質管理士の資格を持つ技師が毎日精度管理を行っています。

Interview

放射線治療科
医長
こだに なおひろ
小谷 直広

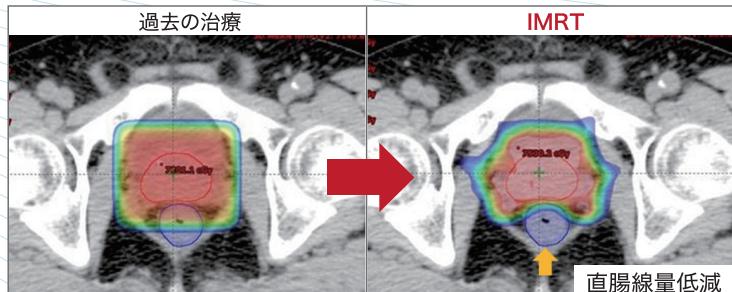


地域の皆様へ

放射線治療の進歩により、根治性の向上と副作用の低減が可能になってきています。患者を中心にして主治医の先生方と連携して、より良いがん治療を目指したいと思いますので、どうぞお気軽にご相談ください。放射線治療科を初めて受診される際は、主治医の先生より事前予約をお願いしております。院外からは地域医療連携課までご連絡いただければ幸いです。

3 IMRT(強度変調放射線治療)

複雑な形状の照射野で複数方向から治療を行うことで、ターゲットの形状に合わせて線量を分布させる技術です。腫瘍にしっかりと放射線をあてつつ、隣接する正常臓器の線量を下げる事が可能で、副作用の低減が期待されます。例えば前立腺癌ではIMRTを用いることで、直腸出血の副作用が減ることが実証されています。当院では前立腺癌や婦人科癌の術後照射、耳鼻喉科癌などに対して用いています。



(前立腺癌症例)IMRTにて直腸線量を下げる事が可能に。

4 短期照射

以前から乳癌術後照射などでは、1回線量を増やして治療回数を短くする短期照射の有効性が知られており、適応となる場合は短期照射を選択肢として提示してきました。

最近では前立腺癌根治照射においても、短期照射が通常照射の代替となり得ることが臨床試験で示されつつあり、当院では倫理委員会の審査承認を得たうえで、2017年1月より前立腺癌に対しても短期照射を開始しています。従来法の治療回数の多さが負担となる患者さんへの解決策になれば幸いです。

●当院での治療スケジュール例

	通常照射	短期照射
乳癌術後		
Boost(-)	2Gy × 25回	2.66Gy × 16回
Boost(+)	2Gy × 30回	2.66Gy × 20回
前立腺癌	2Gy × 37-39回	3Gy × 20回

HOSPITAL TOPICS

病院トピックス

病院に中学生がやってきた!
ドキドキ! ワクワク!

中学生の職場体験記

第2弾

京都第二赤十字病院は 『生き方探究・チャレンジ体験』 に協力しています!

2月7日(火)～9日(木)の3日間、市内の中学2年生3名の受け入れに協力し、いろいろな部門で職場体験をしていただきました。当院では昨年6月に引き続き、2回目の受け入れとなります。

『生き方探究・チャレンジ体験』とは?

京都市教育委員会が推進する「中学生が自らを見つめ、生き方について考えを深めながら自ら学ぶ力(生きる力)を育む」というキャリア教育の一環で、生徒の興味・関心に応じた勤労体験・職場体験、ボランティア体験などを行う事業です。

リハビリ体験。
中学生と話す患者さんも楽しそう。



初めての模擬調剤にドキドキ。
見ている2人も気になる様子。



きっと体力をつけないと!

見たことないような
厨房の大きな鍋やしゃもじに
驚きの様子でした。



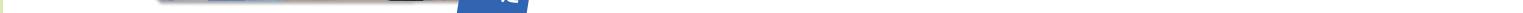
看護部長と共に検食!



どれが内臓なんだろう…。

初めて見るエコーの映像に
興味津々の中学生。

赤ちゃんの
生命力を感じました!



アンгиオ室を見学。
疑問点を積極的に質問していました。

Event イベント

小児病棟で 豆まきを行いました



小児科医師が鬼に扮して登場！ 小児病棟を回って子どもたちと一緒に豆をまいて、無病息災を願い邪気を追い払いました。毎年行っているこの行事、先生による工夫を凝らした衣装が患者さんやご家族からご好評いただいています。最初は怖がって泣いてしまった子どもも最後はみんなで仲良く、はいチーズ！ 笑顔溢れる節分となりました。



Red Cross Activities

赤十字活動

第5回 院内災害救護訓練を実施



平成29年2月25日（土）、第5回目となる院内災害救護訓練を実施しました。訓練には傷病者役を演じた看護学生を含めて総勢184名が参加し、多職種が連携して訓練する大規模なものとなりました。

訓練では、京都市内において大地震が発生したという想定で、院内に構築した救護所に多数傷病者を受け入れ、トリアージによって重症度別に選別を行い、各処置エリアに搬送して傷病者の状態の安定化を図っていくことを練習します。これを行うには、災害対策本部を中心とした指揮命令系統を確立し、救護所内で情報を共有するための通信網を整え、常に問題点を評価して改善していくことが重要になります。多くの課題が見つかりましたが、今後の院内救護力を強化する上で有意義な訓練となりました。

医師	23名
看護師	67名
薬剤師	7名
放射線技師	4名
検査技師	4名
事務職員	41名
臨床工学技士	2名
看護学生	36名
合計	184名



重症傷病者処置エリア



傷病者をトリアージ



救護所を管理する
現場指揮所



全体を統括する災害対策本部



外来担当医師表

新患 ■再来 ■完全予約制 ■予約制

平成29年4月1日現在

診療科目	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
内科 血液内科 糖尿病内科 腎臓・膠原病内科	1診	門野(糖尿病・内分泌)	佐々木(血液)	小林(血液)	小牧(腎臓)	魚嶋(血液)				
	2診	赤荻(血液)	堤(血液)	村上(腎臓)	河田(血液)	赤荻(血液)	井上(リウマチ・膠原病)			
	3診	加藤(糖尿病・内分泌)	井上(リウマチ・膠原病)	長谷川(糖尿病・内分泌)	門野(糖尿病・内分泌)	長谷川(糖尿病・内分泌)				
	4診	■魚嶋	■長谷川・■加藤 [隔週]	■小森(血液)	■井上・■田畠 [隔週]	■田畠 (糖尿病・ 腎臓・ リウマチ)	■佐々木[1・5週] ■堤[2・4週] ■小森[3週]	■加藤 (糖尿病・内分泌)	■村上・■小牧 [隔週]	
呼吸器科	1診	久保田	南端	■原	長谷川	久保田	■原	■担当医		
	2診	■新患担当医 久野	■新患担当医		■新患担当医 古谷	■新患担当医 山本	■新患担当医 長谷川			
	3診							■山本		
循環器科	1診	藤田	松尾	坂谷	藤田	井上				
	2診	椿本 (血管・末梢動脈疾患)	小出	入江	五十鈴	経堂 (SAS)				
	3診	藤本	井上(ベースメーカー)	下尾	高松	北村	福井	坂谷(ベースメーカー)		
消化器科	1診	■鈴木	■中瀬	■盛田	■河村	■担当医				
	2診	■宇野	■田中	■白川	■安田	■上田				
	3診	■安田	■河村	■宇野	■萬代	■真田	■中瀬	■鈴木		
	4診	■岡田	■■盛田(肝臓)	■真田	■崎山	■萬代				
脳神経科	1診	田中	永金	小島	芦田	山田				
	2診			■脳卒中再発予防	■脳卒中再発予防 [1・3・5週]	■脳卒中再発予防 [2・4週]				
こころの医療科	1診	多賀	多賀	多賀			■多賀			
	2診	中村	中村	中村	中村	中村	中村			
	3診	檜垣	檜垣		■檜垣		■檜垣			
外科	1診	■谷口	■井川 (新患及び大腸肛門)	■井川 (大腸肛門)	■山口	■山口	■阿辻	■阿辻 (再来及びスマ)		
	2診	■西村	■飯塚(大腸肛門)	■坂井(小児外科)		■中村		■氏家		
	3診	■柿原	■富田(乳腺外来)		■近藤	■藤堂	■石井(乳腺)	■石井(乳腺術後)		
	4診	(呼吸器外科使用)	■石井(乳腺外来)	(呼吸器外科使用)	(呼吸器外科使用)	(呼吸器外科使用)				
呼吸器外科		松浦		柳田[1・3・5週]・松浦[2・4週]	柳田					
心臓血管外科	1診		■山崎 ■松崎(血管外來) (成先天性心疾患外來)	■平松		■平松		■山崎		
脳神経科	1診	■担当医	■武美	■■武美(紹介) [~15時]	■中原	■■中原(紹介) (下垂体・脳腫瘍)		■武内		
	2診	■久保(医員)	■村上(紹介)		■久保(医員)			■■武内(紹介) (腫瘍・疼痛)		
整形外科	A 1 診	■山崎	■福井	■奥田	■谷口/■立入[PM]	■八田				
	B 2	■松木	■足立	■松木	■平井	■谷口				
	C 3	■平井	■井上	■野々村	■市野	■野々村				
	2診	■八田(脊椎)/■福井(股関節)	■平井(膝・スポーツ)	■福井(股関節・人工関節)	■野々村(脊髄・脊椎)	■市野				
	3診	■奥田(手・末梢神経)	■谷口(足)		■八田(脊髄・脊椎) ■松木(手)	■井上				
小児科	4診	■足立	■山崎(リウマチ・スポーツ)	■日下部(小児・股関節)	■山崎(リウマチ・スポーツ)	■松木(手・末梢神経)				
	1診	■長村	■フォローアップ外來	■大前	■乳児健診予防接種	■長村	■小林(循環器)	■藤井	■フォローアップ外來	■大前
	2診	■齊藤	■渡辺	■東道	■大前(神経・在宅)	■藤井		■大前	■浅井(血液・腫瘍)	■浅井
産婦人科	3診	■小林(専門) (循環器)	■渡部[1週] ■藤井[2・3・4週]	■長村(専門) (小児神経)	■加藤	■東道(専門) (アレルギー外來) (食物アレルギー)	■藤井 (アレルギー外來) (食物アレルギー)	■長村(専門) (小児神経)	■松尾[1週]	■小林(専門) (循環器)
	1診	■藤田・■南川	■加藤・■藤田	■衛藤 ■栗原[1・3・5週]・■福山[2・4週]	■■福山[1・3・5週]・■栗原[2・4週] ■■衛藤[1・3・5週]	■■南川[1・3・5週]・■加藤[2・4週]	■■栗原	■■南川・■加藤		
	2診	■妊婦健診 ■専門外來	■福山	■衛藤 ■加藤(腫瘍)	■益田(術後再診) [14時～]	■■南川[1・3・5週]・■加藤[2・4週]				
耳鼻咽喉科	3診	■新患	■竹中	■内田	■村井	■村井			■出島(紹介)	
	再来	■村井/■担当医・■水田[PM]	■竹中・■村上・■村井/■水田	■■出島・■内田[2・4・5週] ■■村上・■水田[1・3週]		■■■担当医		■■■内田・■竹中・■村井		
眼科	1診	■溝部	■田中	■溝部	■■溝部	■■吉川				
	2診	■粥川	■澁井	■澁川	■■澁川	■■吉川				
	3診	■宮谷		■宮谷						
皮膚科	4診	■池田・■山里	■岡村・■曾我	■曾我	■■山里	■■池田・■岡村				
	予約再診	■山田・■曾我 ■岡村	■池田 ■曾我(乾癬外來) ■岡村・■山里	■池田・■小森 ■山里	■手術 (アレルギー検査) ■紫外線治療 ■小手術[1・3・5週]	■高橋・■岡村 ■山里	■曾我・■岡村 ■山里	■池田・■曾我 ■岡村	■曾我・■高橋 ■山里	■池田・■曾我 ■岡村・■山里
	5診	■奥田	■鈴木			■■奥田				
形成外科	6診	■貴島	■担当医	■平原	■邵	■辻本	■邵			
	7診			■辻本	■齋藤		■■担当医		■■■齋藤	
泌尿器科	1診	■担当医	■平原	■邵	■■邵					
歯科・口腔外科	2診	■平原	■辻本	■齋藤						
放射線治療科	3診	■田中	■猪田	■西川	■■田中	■■西川				
放射線診断科	4診	■小谷・■清水	■小谷・■清水	■小谷・■清水	■■小谷・■■清水	■■■小谷・■■清水・■増井				
緩和外来	5診	■藤田・■担当医・■会田・■金山・■山下	■藤田・■担当医・■会田・■金山・■山下	■藤田・■担当医・■会田・■金山・■山下	■藤田・■担当医・■会田・■金山・■山下	■藤田・■担当医・■会田・■金山・■山下				
外来ドック	6診	■小林・■望月・■西大路・■金口	■小林・■望月・■金口	■小林・■西大路・■金口・■北村	■小林・■望月・■西大路					
入院ドック	7診	■望月	■望月・■小林	■小林	■小林・■望月	■望月				

*予約診療制(急患を除く)

*予約受付時間 全診療科 午前8時30分～午前11時00分

●初診の患者さんの外来受診には、他の医療機関からの紹介状をご持参ください。

●紹介状のない方が受診する場合は、選定療養費として5,000円(税抜)を請求させていただきますのでご了承ください。